

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
472	163.50	163.80	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	163.50	163.60	高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	163.50	163.60	163.50~163.60m:高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が晶出する。	-
473	164.00	164.30	φ10m/mと大型・橙色のかり長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30	φ10mmと大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	164.00	164.30	164.00~164.30m:径10mmの大型の橙色のかり長石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。	-
474	164.50	164.50	φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50	φ50mmの石英の晶洞。長石などの2次鉱物を伴っている。	164.50	164.50	164.50m:径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。	-
475	164.94	164.94	70°密着割れ目上壁側に厚さ20mm/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。	164.94	164.94	70°密着割れ目上端側に厚さ20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界に劣化はない。	164.94	164.94	164.94m:70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下端境界に劣化はない。	-
476	164.95	165.89	橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。	164.95	165.89	橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、色調も橙色系(にぶい橙色)を呈する。	164.95	165.89	164.95~165.89m:橙色のかり長石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい橙色などの橙色系を呈する。	-
477	165.32	165.32	70°割れ目は165.32mでφ8mmの橙色かり長石を横断している。また交差する割れ目の一部も切っている(見掛け変位置2~5m/m左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。	165.32	165.32	70°割れ目は165.32mでφ8mmの橙色かり長石を横断している。また交差する割れ目の一部も止めている。切っている(見掛け変位置2~5mm左ズレ)。本割れ目面には鏡肌も認められる。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	165.32	165.32	165.32m:70°の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止めている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が見られる。系統的な割れ目も存在しない。	-
478	165.80	166.10	φ10~20m/mの石英が多く晶出している。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	φ10~20mmの石英が多く晶出している。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	165.80	166.10	165.80~166.10m:径10~20mmの石英が多く晶出する。一部は他形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。	-
479	166.44	166.47	φ10m/m斑状~長20~30m・幅5m/mのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	φ10mm斑状~長20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出。	166.44	166.47	166.44~166.47m:径10mmの斑状~長さ20~30mm・幅5mmのレンズ状で石英が晶出する。	-
480	166.65	167.21	CH 一部でやや割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	CH 一部でやや高角度割れ目が多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	166.65	167.21	166.65~167.21m:CH 一部で高角度割れ目やや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。	-
481	167.00		167.00m以深では緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	-	-	-	167.00	-	167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。	-
482	167.21	167.55	CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが岩片は堅硬で挟在物は分布しない。	167.21	168.22	167.21~168.22m:CM 白色筋状のゆ着割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。	-
483	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	167.55	168.22	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	-

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名：H27-B-3

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
484	167.55	169.66	CH 堅硬。塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、φ2~3m/m暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目自体に分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	168.22	169.66	CH 堅硬。塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コア主体。白色筋状のゆ着割れ目も含んでいるが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、φ2~3mm暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目自体に分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は色調が暗緑灰色を呈する。割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱晶出部が認められる。	168.22	169.66	168.22~169.66m: CH 堅硬。塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。白色筋状のゆ着割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2~3mmの暗緑灰色の斑点状に晶出して点在する。割れ目やゆ着割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目には粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の晶出が認められる。	-
485	168.22	169.66	(コアの形状欄) IIIランク	168.22	169.66	(コアの形状欄) IIランク	168.22	169.66	(コアの形状欄) IIランク	-
486	169.10	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬。	169.19	169.41	緑泥石化が進み暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬。	169.19	169.41	169.19~169.41m: 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。	-
487	169.50	-	169.50m以深、φ2~3m/mの緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.50	-	169.50m以深、φ2~3mmの緑泥石が斑点状に多く晶出。	-	-	-	・下記に具体的な区間の記載があるため記載しない
488	169.66	172.69	B 堅硬。塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	CH 堅硬。塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが密着度が高く、分離しない。	169.66	172.69	169.66~172.69m: CH 堅硬。塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状のゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。	-
489	169.66	172.69	(岩級区分欄) B	169.66	172.69	(岩級区分欄) CH	169.66	172.69	(岩級区分欄) CH	-
490	169.67	170.22	φ2~3m/mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	φ2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出。	169.67	170.22	169.67~170.22m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く晶出する。	-
491	170.20	170.65	60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-	170.20	170.65	170.20~170.65m: 60~70°のゆ着割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	-
492	171.00	171.08	φ10m/mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。	171.00	171.08	φ10mmの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。	171.00	171.08	171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のカリ長石が点在する。	-
493	171.29	171.29	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	35°と87°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.29	171.29	171.29m: 35°と87°の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	-
494	171.85	171.85	割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	34°と74°の割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。	171.85	171.85	171.85m: 34°と74°の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	-
495	172.32	172.53	φ2~3m/m暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1m/m石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。	172.32	172.53	φ2~3mm暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mm石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。	172.32	172.53	172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に晶出。点在する。	-
496	172.69	174.13	CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目によって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目に沿って細脈状~φ1~3mmの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。	172.69	174.13	172.69~174.13m: CH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆ着割れ目に沿って細脈状~径1~3mmの斑点状に晶出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。	-
497	173.66	176.73	密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離。細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。	173.66	173.73	密着度の低い潜在割れ目10~20mm間隔で分布。ハンマーの強打で分離。細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。	173.66	173.73	173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟在物は分布しない。	-



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを通正化している場合は、それとの変更点)												
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事											
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>												
498	173.93	173.93	43° 割れ目はφ5mm/mの橙色カリ長石を切っている。	43° 割れ目はφ5mmの橙色カリ長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度の仰着割れ目が見られる。切っている。割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	173.93	173.93	173.93	173.93	173.93	173.93									
499	174.13	175.55	B 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仰着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	CH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状の仰着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。	174.13	175.55	174.13	175.55	174.13	175.55									
500	174.13	175.55	(岩級区分欄) B	(岩級区分欄) CH	174.13	175.55	174.13	175.55	174.13	175.55									
501	175.15	175.22	割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目には挟雑物は分布しない。	70°程度の割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目には挟雑物は分布しない。	175.15	175.22	175.15	175.22	175.15	175.22									
502	175.55	176.50	CH 堅硬、上下位に比べやや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仰着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	CH 堅硬、上下位に比べやや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。仰着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。	175.55	176.50	175.55	176.50	175.55	176.50									
503	175.45	175.71	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。	175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は硬質で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。割れ目には細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	175.45	175.71	175.45	175.71	175.45	175.71									
504	175.71	176.78	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。	176.50	176.78	176.50	176.78	176.50	176.78									
505	176.50	176.78	(岩級区分欄) CM	(岩級区分欄) CH	176.50	176.78	176.50	176.78	176.50	176.78									
506	175.59	175.62	30° 割れ目沿いに風化(γ)、軟化(D)。砂状~粘土状部ははさまない。	30° 割れ目沿いに風化(γ)、軟質化(D)。砂状~粘土状部は挟まない。	176.59	176.62	176.59	176.62	176.59	176.62									
507	176.78	179.15	B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれる仰着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	OH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれる仰着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5mm暗緑灰色斑点状~厚さ0.5mm細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。	176.78	179.15	176.78	179.15	176.78	179.15									
508	176.78	179.15	(岩級区分欄) B	(岩級区分欄) CH	176.78	179.15	176.78	179.15	176.78	179.15									
509	177.65	177.65	35° 厚さ2~3mm/mの石英脈が分布。周囲と同化している。	35° 厚さ2~3mmの石英脈が分布。周囲と同化している。	177.65	177.65	177.65	177.65	177.65	177.65									
510	177.83	178.27	間にはφ5~10mm/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	間にはφ5~10mmと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。	177.83	178.27	177.83	178.27	177.83	178.27									

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-3)

孔名: H27-B-3

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
511	178.31	178.39	178.31	178.39	178.31	178.39	178.31	178.39	-
		上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mlに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。			上端75°、下端70° 割れ目に囲まれ厚さ25mm、φ5~10mmに細片化している。厚さは25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。			178.31~178.39m:上端75°、下端70°の割れ目に囲まれ幅25mmで径5~10mmに細片化する。幅25mmでごく薄く砂状化する部分がある。上端面に緑泥石がフィルム状に付着する。	
512	178.45	-	-	-	-	-	178.45	-	-
		178.45m以深には仲着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。			-			178.45m以深は仲着割れ目が多いが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	
513	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	-
		CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 仲着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。			CM 179.37~179.68m間の一部は15~57°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 仲着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。			179.15~180.00m: CM 179.37~179.68m間の一部は15~57°の割れ目が交差し片状化するが、岩片は堅硬で、面は未風化・未変質で挟在物も分布しない。一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する。仲着割れ目の多くは開口割れ目化する。	
514	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	179.15	180.00	-
		(コアの形状欄) IIIランク (岩級区分欄) CH			(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM			(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CM	



H27-B-4

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
記事			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事			
			追加変更した情報が正しく転記されているか?			選定した記事内容			
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
1	-	-	-	0.00	13.75	盛土	0.00	13.75	0.00~13.75m:盛土
2	0.00	0.22	φ5~50mmの角礫より成る。岩種は砂質頁岩。	0.00	0.22	礫(盛土) φ5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。	0.00	0.22	0.00~0.22m:礫 径5~50mmの角礫からなる。岩種は砂質頁岩。
3	0.22	3.10	φ2~20mm程度の礫(角礫~垂円礫)を含む。 max40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.22~1.00m間は比較的礫分に富む。 総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。	0.22	3.10	礫混じり砂(盛土) φ2~20mm程度の花崗斑岩、アブライト、頁岩などの礫(角礫~垂円礫)を含む。最大径40mm 基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。 0.22~1.00m間は比較的礫分に富む(礫率5~10%) 総じて緩く、コアは指圧で容易に凹む。	0.22	3.10	0.22~3.10m:礫混じり砂 径2~20mm程度の花崗斑岩、アブライト、頁岩などの礫(角礫~垂円礫)を含む。最大径40mm。基質は褐色味を帯びた粗砂が主体。0.22~1.00m間は比較的礫分に富む(礫率5~10%)。全件に緩く、コアは指圧で容易に凹む。
4	3.10	6.30	礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、アブライトの他、黒石の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる φ10~100mmの角礫~垂角礫が多い	3.10	6.30	砂質礫(盛土) 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類、アブライトの他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片を混じえる φ10~100mmの角礫~垂角礫が多い 基質は細礫及び粗砂からなる	3.10	6.30	3.10~6.30m:砂質礫 礫分が多くなる。礫種は花崗岩類の他、黒色の砂質頁岩やコンクリート片が混じる。径10~100mmの角礫~垂角礫が多い。基質は細礫及び粗砂からなる。
5	3.30	3.58	コンクリート片	-	-	-	3.30	3.58	3.30~3.58m:コンクリート片
6	3.70	4.00	この間基質は流失済み。	3.70	4.00	この間基質は流失済み。 全体にルーズ	3.70	4.00	3.70~4.00m:基質は流失済み。全体にルーズ。
7	4.00	8.00	花崗岩、花崗斑岩、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩を少量含む。角礫~垂角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmax φ90mm 基質は細礫+粗砂	4.00	8.00	花崗岩、花崗斑岩、アブライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩を少量含む。角礫~垂角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmax φ90mm 基質は細礫+粗砂	-	-	-
8	5.73	6.00	基質はやや流失済み。	-	-	-	5.73	6.00	5.73~6.00m:基質はやや流失済み。
9	6.30	7.00	砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含む。きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。	6.30	7.00	礫混じり砂(盛土) 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を5%以下で含む。極めて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に比べて良く締っている。	6.30	7.00	6.30~7.00m:礫混じり砂 粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含む。極めて少量の径10mm以下の頁岩の角礫を含む。上位に比べて良く締っている。
10	7.00	7.45	Apの巨礫。頁岩の捕獲岩片を含む。	7.00	7.45	Apの巨礫。頁岩の捕獲岩片を含む。	7.00	7.45	7.00~7.45m:アブライトの巨礫



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)										
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を先書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事	記事 (変更箇所を先書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容					
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>														
11	7.45	7.70	燥った細礫を含む砂(粗砂)		7.45	7.70	花崗岩類、頁岩の角~垂角礫の細礫を9%程度含む 締った砂(粗砂)		7.45	7.70	7.45~13.75m: 礫混じり砂~砂質礫 径2~70mmの花崗岩類、黒灰色の頁岩の角~垂円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている。						盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめ書きた
12	7.70	8.00	花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。		7.70	8.00	砂質礫(盛土) 花崗岩類の角礫の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。		7.70	8.00							
13	8.00	8.20	砂(粗砂)が主体となる		8.00	8.20	礫混じり砂(盛土) 砂(粗砂)が主体となる φ10mm以下の花崗岩類の角礫を含み、φ5mm以下の頁岩の垂角~垂円礫をごく少量含む。やや締っている。		8.00	8.20	7.45	13.75					
14	8.20	-	花崗岩類のφ10~50mmの角~角角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。maxφ70mm 少量の黒灰色の頁岩が散在する。		8.20	13.75	砂質礫(盛土) 花崗岩類のφ10~50mmの角~垂角礫が主体。大型の礫はApがやや目立つ。最大φ70mm 少量の黒灰色の頁岩が散在する。 基質は細礫および細砂		8.20	13.75							
15	10.15	10.15	幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。		-	-	-		10.15	10.15	10.15	10.15	10.15	10.15m: 幾分炭化した長さ100mmの木片を含む。			
16	11.03	11.52	含有礫は総じて小さく中礫以下。		11.03	11.52	含有礫は上下位に比べて小さくなる		11.03	11.52	11.03	11.52	11.03~11.52m: 含有礫は上下位に比べて小さくなる。				
17	12.05	12.20	Gpの大礫。		-	-	-		12.05	12.20	12.05	12.20	12.05~12.20m: 花崗斑岩の大礫を含む。				
18	12.04	12.04	木片混じる		12.24	12.24	木片混じる		12.24	12.24	12.24	12.24	12.24m: 木片混じる。				
19	12.51	12.63	幾分炭化した木片混じる		-	-	-		12.51	12.63	12.51	12.63	12.51~12.63m: 幾分炭化した木片混じる。				
20	13.65	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。		13.65	13.75	木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。		13.65	13.75	13.65	13.75	13.65~13.75m: 木片混じる。13.75m付近に合板を含む。				上記に盛土区間を追記したため、人工地盤である旨の記載は削除した
21	-	-	-		13.75	140.00	花崗斑岩 堆積物との境界は45°で明瞭 所々、斑晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。		13.75	140.00	13.75	140.00	13.75~140.00m: 花崗斑岩 堆積物との境界は45°で明瞭。所々、斑晶が少なくアブライト様を呈する部分を含む。				
22	13.75	14.67	風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる		-	-	-		13.75	14.67	13.75	14.67	13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。				
23	14.24	14.24	付近、割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著		14.24	14.24	付近、65°割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著		14.24	14.24	14.24	14.24	14.24m付近、65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。				
24	14.53	14.53	付近、頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる		14.53	14.53	付近、頁岩礫3個。上部からの崩壊物と思われる		14.53	14.53	14.53	14.53	14.53m付近、頁岩礫を3個含む。上部からの崩壊物である。				
25	14.67	-	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。		14.67	15.49	風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。		14.67	15.49	14.67	15.49	14.67~15.49m: 風化は若干軽微なり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い。割れ目に沿った薄い白色変質脈が見られるものがある。				
26	15.00	15.49	低角度の割れ目が優勢。風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。		15.00	15.30	15.06m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。		15.00	15.30	15.00	15.30	15.06m、15.09mにはそれぞれ43°、55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化する。砂~シルト状の灰白色の細粒物が見られる。コアも軟質である。				

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を先書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
27	15.00	15.91	(変質欄)3ランク	15.00	15.91	(変質欄)2ランク	15.00	15.91	(変質欄)2ランク	-
28	15.52	15.60	礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	15.49	15.62	15.49～15.62m: 礫状コアを呈する。	-
29	15.60	15.91	割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	15.62	15.91	30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	15.62	15.91	15.62～15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	-
30	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンで汚染される	15.91	16.36	破砕帯である。全体にマンガンで汚染される			●15.91～16.36m: 破砕帯 15.91～16.33m: 粘土混じり礫状～粘土質礫状部(H) 上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。径2～20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。上端には径2～6mmの緑灰色粘土が不連続に分布する。オリブ黄色を呈する。 16.33～16.36m: 粘土状～礫混じり粘土状部(Hc-1) 上端不明瞭。下端76°で波打って連続。径2～5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。灰白色を呈する。幅25mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
31	15.91	15.91	上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2～6mmで見られる。	15.91	15.91	上端72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2～6mmで見られる。 やや軟質であり、粘土はコアの中輪付近でせん断する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
32	-	-	-	15.91	16.33	上端72°でやや湾曲して連続。下端不明瞭。粘土混じり礫状～粘土質礫状(H)を呈する。径2～20mmの岩片主体で上部は割れ目が認められ、マンガン汚染を伴う。オリブ黄色を呈する。やや軟質。割れ目に沿って細粒部を挟むがいずれも局所的である。マンガン汚染により一部不明瞭となっているが、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	15.91	16.36		
33	-	-	-	16.33	16.36	上端不明瞭。下端76°で波打って連続。灰白色の粘土状～礫混じり粘土状(Hc-1)を呈する。径2～5mmの石英粒や岩片を10%以下で含む。厚さ25mm。粘土は軟質で連続性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
34	16.36	16.36	下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。	16.36	16.36	下端76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。最新活動面。粘土を伴い、最も直線的である。				
35	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	16.36	16.52	16.36～16.52m: 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	-
36	16.52	48.20	(変質欄)3ランク	16.52	48.20	(変質欄)2ランク	16.52	48.20	(変質欄)2ランク	-
37	16.52	17.03	割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫～砂状となる	16.52	17.03	40～60°の割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫～砂状となる	16.52	17.03	16.52～17.03m: 40～60°の割れ目沿いの劣化が顕著で一部礫～砂状となる。	-
38	17.03	17.86	低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	20°程度の低角度の割れ目が優勢。割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	17.03	17.86	17.03～17.86m: 20°程度の低角度の割れ目が優勢で、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	-
39	17.86	18.00	コア表面のザラつきは幾分軽微。	17.86	18.52	コア表面のザラつきは幾分軽微。 20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い	17.86	18.52	17.86～18.52m: コア表面のザラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の微細な割れ目が非常に多い。	-
40	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	18.00	19.08	低角度の微細な割れ目が非常に多い	-	-	-	-
41	-	-	-	18.52	24.55	30～60°の中角度の割れ目が主体。割れ目に沿った褐色化が認められる。斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ。	18.52	24.55	18.52～24.55m: 30～60°の中角度の割れ目が主体で、割れ目に沿った褐色化が認められる。風化し軟質となった比較的大型の斜長石の斑晶が目立つ。	-
42	18.70	20.00	斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	18.70	20.00	斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	-	-	-	-
43	19.57	19.76	礫状コアが主体となる	-	-	-	19.57	19.76	19.57～19.76m: 礫状コアが主体となる。	-



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
44	20.02	20.02			付近、きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm、50°	20.02	20.02	20.02m付近、傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん滅する。	-	
45	20.07	20.07			小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm、角度30° 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	20.07	20.07	20.07m:傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。	-	
46	20.23	20.37			割れ目沿いに一部細礫状となる。	-	-	20.23~20.37m:割れ目沿いに一部細礫状となる。	-	
47	20.56	20.55			礫状となる。	20.55	20.65	20.55~20.65m、20.87~20.94m:礫状となる。	・記事内容が同じであるため、20.87~20.94mの深度も含めて記載した	
48	20.87	20.94			礫状となる。	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない	
49	21.36	21.60			微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭	21.18	21.50	21.18~21.50m:微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭である。		
50	21.50	22.47			割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる	-	-	21.50~22.47m:割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。	-	
51	21.85	22.18			(岩級区分欄)CM	21.85	22.18	(岩級区分欄)CLに含める	-	
52	22.47	22.55			礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。	22.47	22.55	22.47~22.55m:コアチューブ引き上げ時の擾乱により礫状となる。	-	
53	23.39	-			コアは軟質となり、表面はザラつく	23.38	24.55	23.38~24.55m:コアは軟質となり、表面はザラつく。	-	
54	24.13	24.55			落下したコアを再採取したものと思われる。	-	-	24.13~24.55m:落下したコアを再採取したものである。	-	
55	-	-			-	24.55	25.48	24.55~25.48m:コア欠如	-	
56	-	-			-	25.48	27.22	25.48~27.22m:全体に変質し、長石の白濁化が目立つ。	-	
57	25.96	26.19			コアは軟質で表面のザラつきが大きい	-	-	25.96~26.19m:コアは軟質で表面のザラつきが大きい。	-	
58	26.40	26.47			割れ目沿いの劣化が明瞭。コアも周辺より軟質である。	-	-	26.40~26.47m:割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアも周辺より軟質である。	-	
59	26.96	27.22			岩質が軟質で脆弱である	-	-	26.96~27.22m:岩質が軟質で脆弱である。	-	
60	27.22	27.22			剪断性の割れ目。変質も加わり上層側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40°、N7E-64W	27.22	27.22	27.22m:40°の割れ目は、変質も加わり上層側は明黄褐色を呈し、幅20mmで軟質である。割れ目の面は凹凸があり、面のかみ合わせは良い。軟質部は連続せず、周辺岩盤との境界は一部を除いて漸移的である。軟質部の下層側の岩盤には原岩組織が認められ、軟質部と系統的な割れ目も存在しない。角度40°、N7E-64W	-	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
61	27.38	27.85 (岩級区分欄)CM	27.38	27.85	(岩級区分欄)CL	27.38	27.85	(岩級区分欄)CLに含める	-			
62	27.95	28.00	27.95	28.00	せん断性の節理が局所的に集中し脆弱となる。節理沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず。脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	27.95	28.00	27.95～28.00m: 割れ目が局所的に集中し脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は局所的で連続せず。脆弱部の範囲には原岩組織が認められる。	-			
63	-	-	28.10	28.10	傾斜60°、幅5～12mmのアブライト細脈を挟む。境界面は付着している。	28.10	28.10	28.10m: 傾斜60°で幅5～12mmのアブライト細脈を挟む。境界面は付着している。	-			
64	28.24	28.24	28.24	28.24	25°程度で幅10mm砂～礫状となる。上下端はシャープ。	28.24	28.24	28.24m: 25°程度で幅10mmが砂～礫状となる。上下端はシャープである。	-			
65	29.48	29.91	29.48	29.91	微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m～微細な割れ目はマンガンに汚染される。	29.48	29.91	29.48～29.91m: 微細な割れ目が集中し、かつ、コアは軟質となる。29.59m～29.91mの微細な割れ目はマンガンに汚染される。	-			
66	29.60	29.70	29.60	29.70	せん断性の節理が卓越する。節理は全体にマンガン汚染により黒色化し、節理には細粒部が認められず、節理が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また、節理が卓越する区間及び周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	29.60	29.70	29.60～29.70m: 割れ目が卓越する。割れ目は全体にマンガン汚染により黒色化し、割れ目には細粒部が認められず、割れ目が卓越する区間中に分布する幅2mmの石英脈にずれが認められない。また、割れ目が卓越する区間及び周辺の岩壁には原岩組織が認められる。	-			
67	-	-	29.65	29.65	傾斜45°、幅1～3mmの石英脈を挟む。	29.65	29.65	29.65m: 傾斜45°で幅1～3mmの石英脈を挟む。	-			
68	29.74	29.78	29.74	29.78	ごく小規模な破砕帯。上盤70°白色粘土2mm、下盤67°マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。	29.74	29.78	●29.74～29.78m: 破砕帯 粘土混じり礫状部(H) 上盤70°で幅2mmの白色粘土を一部に伴い、下盤67°でマンガン汚染が顕著に見られ、いずれも直線的に連続。径2～20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。やや軟質な粘土混じり礫状破砕部(H)。含まれる白色粘土は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。最新活動面は上端か下端の可能性があり、にぶい橙色を呈する。幅23mm。	29.74	29.78	●29.74～29.78m: 破砕帯 粘土混じり礫状部(H) 上盤70°で幅2mmの白色粘土を一部に伴い、下盤67°でマンガン汚染が顕著に見られ、いずれも直線的に連続。径2～20mmの岩片主体で岩片間にマンガン汚染が見られる。上盤側は幅10mmで一部変質を伴う。にぶい橙色を呈する。幅23mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
69	30.10	30.69	30.10	30.69	25°前後の割れ目も見られる	30.10	30.69	30.10～30.69m: 25°前後の割れ目が見られる。	-			
70	30.62	30.73	-	-	-	30.62	30.73	30.62～30.73m: やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3～5mmで挟む。	-			
71	31.77	31.93	31.77	31.93	25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	31.77	31.93	31.77～31.93m: 25°前後の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。	-			
72	31.87	31.91	31.87	31.91	せん断を受け、上盤45°暗緑灰色の粘土～シルトを3mm伴う。下盤40°。上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。 含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	31.87	31.91	31.87～31.91m: 上盤45°で幅3mmの暗緑灰色の粘土～シルトを伴う。下盤40°。上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる細粒部は不連続で、軟質な区間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-			



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
			(最大コア長欄) 10			(最大コア長欄) 12				
73	32.00	33.00		32.00	33.00		32.00	33.00		
74	-	-	-	32.05	32.72	割れ目沿いの酸化汚染が目立つ	32.05	32.72	32.05~32.72m: 割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。	
75	32.36	32.39	20° ~30° 程度の剪断性の節理が平行して集中する	32.36	32.39	20° ~30° 程度のせん断性の節理が平行して集中する。上端・下端の節理はマンガン汚染により黒色化しているが、節理には細粒部が認められず、節理周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	32.36	32.39	32.36~32.39m: 20° ~30° 程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
76	32.68	32.73	30° 程度の節理がほぼ平行して集中する。緑レン石の薄い脈が3条見られる	32.68	32.73	30° 程度の節理がほぼ平行して集中する。緑泥石の薄い脈が3条見られる	32.68	32.73	32.68~32.73m: 30° 程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。	
77	33.00	33.62	30~50° の割れ目が優勢。割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	-	-	-	33.00	33.62	33.00~33.62m: 30~50° の割れ目が卓越し、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。	
78	-	-	-	33.00	33.46	33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。	33.00	33.46	33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。	
79	-	-	-	33.30	33.30	33.30mの割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	33.30	33.30	33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	
80	-	-	-	34.11	34.22	不規則な微細な割れ目が多い	34.11	34.22	34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。	
81	-	-	-	34.22	34.22	傾斜65°、幅8mmの石英脈を挟む。	34.22	34.22	34.22m: 傾斜65° で幅8mmの石英脈を挟む。	
82	34.30	34.42	割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。人為的?	34.30	34.42	コアチューブ引き上げ時の振乱により、機械割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。	34.30	34.42	34.30~34.42m: コアチューブ引き上げ時の振乱により機械割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。	
83	34.55	34.55	付近、局所的(連続しない)に低角度で破砕され細礫状となる	34.55	34.55	付近、局所的(連続しない)に傾斜38° で破砕され細礫状となる。細礫状部は途中でせん滅し、連続性に乏しく、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	34.55	34.55	34.55m付近、傾斜38° で局所的で連続しない細礫部を伴う。細礫状部は途中でせん滅し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
84	-	-	-	34.78	34.78	傾斜60°、幅1mm以下の石英脈を挟む。	34.78	34.78	34.78m, 34.79m: 傾斜60° で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	・石英脈についての記事内容が同じであるため、34.79mの深度も含めて記載した。 灰白色粘土の挟在について追記した
85	-	-	-	34.79	34.79	傾斜50°、幅1mm以下の石英脈を挟む。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない
86	-	-	-	35.32	35.32	傾斜40°、幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びている。	35.32	35.32	35.32m: 傾斜40° で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。	
87	35.60	35.78	低角度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色の錫物脈が見られる所が多い。	35.60	35.78	35° 程度のほぼ平行した割れ目が集中し脆弱となる。割れ目沿いに白色~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。	35.60	35.78	35.60~35.78m: 35° 程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。	
88	35.72	35.72	付近、剪断破砕を局所的に受け、礫状となる	35.72	35.72	付近、せん断破砕を局所的に受け、礫状となる。挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	35.72	35.72	35.72m付近は礫状であるが、挟在する細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく、35.70~35.72m間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名: H27-B-4

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
89	-	-	-	35.78	39.40	割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。	35.78	39.40	35.78～39.40m: 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。	-
90	35.78	37.36	(割れ目状態欄) cランク (岩級区分欄) CL	35.78	37.36	(割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CM	35.78	37.36	(割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CM	-
91	36.14	36.35	この間割れ目がやや直線する	-	-	-	36.14	36.35	36.14～36.35m: 割れ目がやや卓越する。	-
92	-	-	-	36.25	37.20	傾斜70°以上の高角度割れ目も見られる。	36.25	37.20	36.25～37.20m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。	-
93	-	-	-	36.86	39.40	傾斜50～70°の割れ目が主体	36.86	39.40	36.86～39.40m: 傾斜50～70°の割れ目が主体となる。	-
94	36.98	37.10	高角度の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで細礫～砂状となる。	36.98	37.10	75°の割れ目に沿って劣化する。厚さ12mmで白色化し、細礫～砂状となる。	36.98	37.10	36.98～37.10m: 75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細礫～砂状となる。	-
95	37.36	37.36	25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる(流入?)	37.36	37.36	25°の割れ目に沿って厚さ4mmの暗褐色のシルト～砂が挟まる(流入?)	37.36	37.36	37.36m: 25°の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト～砂が流入する。	-
96	37.36	37.98	割れ目の汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	37.36	37.98	割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	37.36	37.98	37.36～37.98m: 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟在物は見られない。	-
97	37.98	38.08	(割れ目状態欄) cランク	37.98	38.08	(割れ目状態欄) bランク	37.98	38.08	(割れ目状態欄) bランク	-
98	37.98	38.27	(岩級区分欄) CM	37.98	38.27	(岩級区分欄) CH	37.98	38.27	(岩級区分欄) CHに含める	-
99	38.08	38.27	(コアの形状欄) IVランク	38.08	38.27	(コアの形状欄) IIIランク	38.08	38.27	(コアの形状欄) IIIランク	-
100	38.08	38.96	挟在物が見られる割れ目は、38.53mの高角度のものが1条のみ。	38.08	38.96	挟在物が見られる割れ目は、38.53mの70°のものが1条のみ。	38.08	38.96	38.08～38.96m: 挟在物を伴う割れ目は、38.53mの70°の1条のみである。	-
101	38.96	38.96	～、割れ目に沿って劣化するものが多い	38.96	38.96	以深、割れ目に沿って劣化するものが多い	38.96	38.96	38.96m以深、割れ目に沿って劣化するものが多い。	-
102	38.96	39.40	(岩級区分欄) CL	38.96	39.40	(岩級区分欄) CM	38.96	39.40	(岩級区分欄) CMに含める	-
103	39.10	39.40	(コアの硬さ欄) Cランク	39.10	39.40	(コアの硬さ欄) Bランク	39.10	39.40	(コアの硬さ欄) Bランク	-
104	39.21	39.21	割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	-	-	-	39.21	39.65	39.21m、39.60～39.65m: 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	・記事内容が同じであるため、39.60～39.65mの深度も省めて記載した
105	39.60	39.65	割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂～細礫状となる。	-	-	-	-	-	-	・上記にまとめ書きしたため記載しない
106	40.64	40.93	割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。砂～細礫となる所が多い。割れ目沿いに変質している。	40.64	40.93	不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭。灰白色～黄褐色の砂～細礫となる所が多い。割れ目沿いに変質している。	40.64	40.93	40.64～40.93m: 不規則な割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化による劣化が明瞭である。灰白～黄褐色の砂～細礫状となる所が多い。	-
107	40.95	41.00	割れ目沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	割れ目沿って劣化。細礫状となる。	40.93	41.00	40.93～41.00m: 割れ目沿って劣化し、細礫状となる。	-
108	41.00	41.20	低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い	41.00	41.20	低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い	41.00	41.20	41.00～41.20m: 低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い。	-



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-4)

孔名:H27-B-4

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
109	41.37	41.47	ほぼ平行な割れ目が集中。割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。	41.37	41.47	ほぼ平行な40°前後の割れ目が集中。割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。	41.37	41.47	41.37~41.47m:ほぼ平行な40°前後の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱である。	-
110	41.80	41.91	割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。	41.80	41.91	割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。変質し灰白色粘土が網目状に分布する。	41.80	41.91	41.80~41.91m:割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。変質し灰白色粘土が網目状に分布する。	-
111	-	-	-	42.12	42.12	傾斜40°、幅2mmの黄褐色粘土を挟む。	42.12	42.12	42.12m:傾斜40°で幅2mmの黄褐色粘土を挟む。	-
112	42.12	42.25	割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。	42.12	42.25	割れ目に沿った劣化が顕著。一部硬質な砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。	42.12	42.25	42.12~42.25m:割れ目沿いの劣化が顕著で、一部硬質な砂状となる。粘土や鏡肌は見られない。	-
113	42.35	42.35	25°と割れ目に厚さ2~3mmのマンガン挟在	42.35	42.35	25°の割れ目に厚さ2~3mmのマンガン挟在	42.35	42.35	42.35m:25°の割れ目に幅2~3mmのマンガンを挟む。	-
114	42.38	42.46	局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。	42.38	42.46	局所的に硬質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。	42.38	42.46	42.38~42.46m:局所的に硬質な砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭である。	-
115	43.05	43.05	剪断破砕をごく小規模に受ける。角度32°、幅10mm。上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。	43.05	43.05	せん断破砕をごく小規模に受ける。角度32°、幅10mm。上盤は幅1~2mmの石英脈を伴う。下盤は灰白色粘土幅2mm。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。	43.05	43.05	43.05m:傾斜32°で幅10mmが劣化する。上盤は幅1~2mmの石英脈、下盤は幅2mmの灰白色粘土を伴う。灰白色粘土は分岐し、直線性に乏しい。	-
116	43.05	43.15	(岩級区分欄)D	43.05	43.15	(岩級区分欄)CL	43.05	43.15	(岩級区分欄)CLに含める	-
117	43.06	43.15	岩片状コア。(人為的なものを含む)	43.06	43.15	コアチューブ引き上げ時の擾乱による岩片状コア。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	43.06	43.15	43.06~43.15m:コアチューブ引き上げ時の擾乱により岩片状を呈する。当該区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
118	43.54	43.65	変質及び風化の為、脆弱となる。43.63m 白色の変質脈。粘土化はしていないが軟質。	43.54	43.65	変質及び風化の為、脆弱となる。43.63m 幅15mm程度の白色の変質脈。粘土化はしていないが軟質。	43.54	43.65	43.54~43.65m:変質及び風化で脆弱となる。43.63mには幅15mm程度の白色の変質脈を伴い、粘土化はしていないが軟質である。	-
119	43.80	43.21	低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。	43.80	44.21	20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。	43.80	44.21	43.80~44.21m:20~30°の割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	-
120	44.46	44.46	42°の割れ目に沿って褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し光る。	44.46	44.46	42°の割れ目に沿って褐色汚染顕著。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し、幅5mm程度で緑色化している。	44.46	44.46	44.46m:42°の割れ目に沿って褐色汚染が顕著である。周辺には絹雲母と黄鉄鉱が散在し、幅5mm程度で緑色化する。	-
121	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)cランク	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IIIランク (割れ目状態欄)bランク	44.70	44.94	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IIIランク (割れ目状態欄)bランク	-
122	44.94	45.21	(コアの形状欄)IVランク	44.94	45.21	(コアの形状欄)Vランク	44.94	45.21	(コアの形状欄)Vランク	-